

健木八の川柳アート

46

ちよつと添削

年賀状印刷ばかりは味気なし 池内弘志
印刷の年賀状は素っ気ないね。とすると喜ばれるのはどんな賀状だろうか。達筆はこれ見よがしで嫌味だね。すると下手な字の手書きが温かい。「ひとこと添え書きがあればいいのに」とは池内さんの弁。
下手な字の手書きの賀状喜ばれ

特選

選者・川柳アート
八木健

（月刊川柳総合誌「川柳マガジン」元選者）



花山 昇 (松山市)

くじ運が悪くて当り裁判員

仕事が忙しいから断るか。まてよ、俺は無職だった。残忍な奴、死刑にしちまえ……。なんてテレビに向かって叫んでいたのに。トホホホ。重い犯罪じゃなくて、結婚詐欺とか万引きなら名判決出す自信があるのになあ。

佳作



藤原 白男 (今治市)

ほほど降ろして欲しい縄電車

じいちゃん大好き。お年玉を「ばあちゃんに内緒だよ」って一万円もくれて、宿題もやってくれた。じいちゃんのいいところは、くたびれたなんて言わないところ。嫌な顔しないで付き合ってくれたいから、ばあちゃんが相手してくれないから。



金子 宣 (東温市)

支持低下シジヒクカとは読まないで

日浅純子さんの川柳に「読み違い人の振り見て売れる本」がありました。「首相の漢字読み間違いから漢字の本がベストセラーになっている」とコメント付き。漢字は許せるが、政策の読み間違いは困るね。



北川アイ子 (松山市)

部屋ひとつ貰い欠伸とくしゃみする

部屋ひとつ貰い欠伸とくしゃみする
プライバシーは若い夫婦だけのものじゃないことに気付かされる一句。思い切り大きな尻をこいたり。なんだか分からんが「馬鹿野郎」と怒鳴ってみたり。それがストレスの発散になる。じじはばに自由な空間をプレゼントしようぜ。

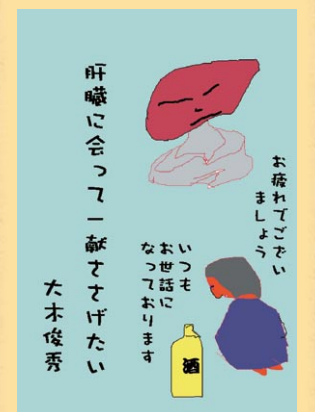


石原 康正 (松山市)

ほどほどが難しいのよバイキング

バイキングで大皿に山盛り……。そういう方は間違いなくメタボなんです。グループ旅行で困るのは、「あなたの分も取ってきたのよ」と取り分けてくれる親切なお方。本当は、食べきれなくてお裾分けだから始末が悪い。

古今の名句



大木 俊秀

肝臓に会って一献さげたい

肝臓に会って一献さげたい
肝臓に人格を与えた面白さ。酒で疲れた肝臓にお詫びするのに、酒を振る舞うという可笑しさ。振る舞うには自分が飲まなきゃならんから、「いい思いをする」のは肝臓の持ち主という可笑しさである。著書に「俊秀流川柳入門」がある。

今月の八木健



マスコミが不景氣風を煽るから

不景氣なニュースしかないから、仕方なく取り上げる。すると、国民の心理はますます不景氣に対応して買い控えになる。それを報道するから堂々巡りになって煽るかたちになる。不景氣風を吹き飛ばすようなニュースを見つけてなさい。

本コーナーが
待望の単行本化
好評発売中!!



「八木健の川柳アート」では、川柳を募集しています。テーマは自由。未発表のオリジナル作品に限ります。採用された作品には八木さんが「川柳アート」を作り、本誌に掲載の上、採用者にプレゼントいたします。応募方法は36ページをご覧ください。